

みんなの日記

12月25日(日)

1日目

K.I (M) 小4

ホテルに着いて研修会をしました。先生の話をよく聞いてから研修ノートと鍵をもらいました。みんなでカレーを食べてから部屋へ。早速、Kくんと言う友達ができました。すぐに仲良くなって、たくさん遊びました。感想→カレーの時のコーンポタージュがおいしかったです。

K.G (M) 中1

家族に空港近くのホテルまで送ってもらい事前研修をした。カンボジアグループとカナダグループで集まって交流した。初めはすごく緊張したけど、レインボーが話しかけてきてくれて少し慣れた。その後、2人でペアになってじゃんけんゲームをした。負けてばかりだったけど楽しかった。夕食のときに思いきってKに話しかけたらすぐに仲良くなれた。夕食はカレー、チキン、サラダ、コーンポタージュだった。全部好物だったけど、まだ緊張していてあまり食べられなかった。部屋はKとレインボーと同じだった。夜は緊張してなかなか眠つけなかったからレインボーと話しながら寝た。

F.S (F) 高1

今日は朝からずっとドキドキワクワクしていた。カンボジアとその事前研修にむけて、早く始まって欲しい気持ちと、やはり年末での日本で過ごす時間への惜しみで全然落ち着けなかった。初めての子供二人旅。チケットから手配まで全て自分たちでやったので正解が分からず不安だったが一応何事もなく成田に到着できた。「Welcome to 東京」にととても興奮した。さて、研修仲間との初対面。田舎者のOさんと私は、都会の人にビビっていたがむしろ田舎よりフランクで、しかも面白かった。カンボジアの話で一番戸惑いを感じたのが虐殺についてだった。日本という平和に作り上げられた国が平和を極めているこの時代の私達にとって人が死ぬなんて一大事であり、悲惨であり、残酷なことである。でもそんなことが日常的にずっと当たり前に、まるで息をするかのようにあるなんて私の許容範囲では受け止めきれなかった。私はきっとこの研修で今自分たちが生きていて学校に行けることの幸せと、いかに、私達が無知で平和ぼけしているのか知ると思う。新しい人との出会い、新しい文化との出会い、それらの中で日本中のどの高校生よりもより濃密な冬休みを過ごせたらいいと思う。I hope we will have a nice trip!!

I.O (F) 高1

カンボジアに行くにはまず鹿児島から成田へ。クリスマスでイルミネーションがきらめく中カンボジアに行くのはとてもシュールで不思議な感じがした。昨日東京の天気を調べて「10℃だ、寒い！」となり南極に行く人みたいな恰好をしていたら、迎えに来た高田さんに「スキーに行く人みたい。」と言われた。成田エクセルホテルはキラキラして、ホテルマンがいるような豪華なホテル。ついに、カンボジアと一緒にいくメンバーと合流。部屋に入ってやけに人が多いと思ったら、カナダ組もいた。イメージ通りの都会の子でおしゃれしているな—と思ったけど、意外とフレンドリーでちょっとびっくりした。男の子も、もっと気取っていると思っていたらそんなことなかった。谷口さんにカンボジアの写真を見せてもらった。いろんな写真があったけど、なによりポルポト時代の話やキリングフィールドの写真に衝撃を受けた。部屋に戻ってから、今から自分たちがあの写真の場所に行くと思うと、出発が少し怖くなった。でもしっかりと目に焼き付けて帰ろうと思う。

K.I (M) 小4

朝食を食べて空港に行きました。空港でお店を見ていたらマックがあったので寄りました。ハッピーセットのプレゼントが欲しかったので、急いで食べました。そして時間になり、集合して飛行機に乗りました。飛行機では、「ズートピア」と「ファインディングドリー」を観たりして、途中から寝ました。ご飯が出てきたけど眠くて寝ていました。起きてからフルーツだけ食べました。そしてベトナムに着きました。ベトナムのお店の中で、Kくんがうす塩味のポテトチップスを買ったので一緒に食べさせてもらいました。それから次の飛行機に乗り1時間くらいでカンボジアに着いて、車でホテルに行きました。先生の話聞き、鍵をもらって部屋に入りました。夜は餃子やチャーハンなどを食べました。今日はたくさん休みました。感想→カンボジアに着いて、良さそうな町だなあと思いました。

K.G (M) 中1

朝起きたらレインボーがベッドの布団を片付けてくれた。身の回りを整理してから下に行って朝食を食べた。朝食はバイキングで種類も多かった。バイキングではみそ汁をたくさん食べた。空港の空き時間にKとマックに行った。飛行機の席はレインボーとKの隣で僕は映画を観た。ベトナムの空港ではKとポテチを買ってレインボー、Kと一緒にカンボジアのポテチを食べた。カンボジアに着いてすぐにピザを作った。空港を出たら外はすごく暑かった。その後、プノンペンダイヤモンドホテルに行った。部屋はレインボーとKと一緒にだったので、3人でキャリーバッグの片づけをした。夜は中華だった。全部おいしかったけど特にチャーハンがめっちゃくちゃうまかった。

K.M (M) 中3

今日は移動が中心の1日だった。ベトナムで少し外に出たときはあつかった。その後カンボジアに着いたらいろいろびっくりした。空港の周りにスリみたいな人が結構いた。バイクの量も多い。3人4人で乗ってた。意外にビルやでかい建物が建ってて発展を感じた。マツダやトヨタの店もあった。そして夕飯にホテルの近くの中華に行った。はじめは少しビビったが餃子、チャーハン、焼きそば、どれも絶品で日本の中華とはまた違う良さがあった。油がうまい。今日一日でカンボジアの魅力を感じました。

F.S (F) 高1

飛行機の乗り継ぎばかりで疲れた。でも色々な人種の人とすれ違い、軽い英語ならできるので店に寄ったりしてトライすることができた。まず成田空港でチェックインしたところで異世界でした。久しぶりだったけど日本にいるのにあそこは空気が違う。飛行機の中で日本語の字幕も吹き替えもなかったがエジプトの英語映画も見た。5時間くらいなのでそれだけで暇を潰せた。すごく面白くて、少ししか理解できなかったけど、初めてあきずにフライトの旅ができた。ベトナム空港ではフォーに挑戦してみた。英語がお互いに通じなくて一つでよかったのに二つ出て来た。まあ、いい経験だと思う。お財布が悲しいけど。すごく面白いなあと思ったのが、ベトナム空港にはsleep roomという、寝るためのベンチがあるスペースがありました。WiFiのつながりは少し悪かったけど長時間の待ち時間が多い国際線の人にはとても便利だと思う。カンボジア行きの飛行機の中では50分という、短い時間だったので割とずっと大陸がよく見えていた。カンボジアに着くと、熱気と人々の行き交う量がすごかった。なんだかテレビで見た光景に私1人入り込んだ気がして興奮した。町はとても活気があり、アジアの力と人々の熱が感じられた。

朝からトランクの重量オーバーであわただしかった。朝食のレストランには、成田空港から近いからなのか、外国人がいっぱいた。空港でいろいろ手続きをして、直前まで一緒に行くかのような雰囲気醸し出していた高田さんとお別れ。成田からベトナムのホーチミンまで、約 5 時間のフライト。ゴルフのゲームをしたけど下手すぎた。プラス 20 とか。あとは外国の映画「ザ・プリザード」を見てかなり楽しんだ。そして寝た。空から見るベトナムは、高層ビルも立ち並んでいて、意外と発展していた。ラオスと同じで、都市部と農村部の格差が激しいのだろうけど。ベトナム空港では 2 時間のフリータイム。フォーを売っている店に行って、「フォー1 つ」と身振り手振りで言ったら 2 つ出てきた。これもいい経験です。残りの時間は sleepzone でゆっくりした。そして、ホーチミンからプノンペンへ約 50 分のフライト。成田で買った首の枕をここで使ってしまうという大きな間違いをした。なぜ 5 時間のフライトの時に使わなかったのか。あつという間について書類をいっぱい書いて、いざ空港の外に出たら熱気がすごかった。日本とは全く違う、カンボジア独特の空気。空港を出てすぐに吉野家があるのは謎。カンボジアに住んで 3 年という永井さんはすごくきれいで、なんでこんなに美貌を保っているんだろうと本気で考えた。人も車もバイクも多くて、とにかく活気にあふれている感じだった。これから泊まるダイヤモンドホテルは、豪華できれいだった。成田のホテルより部屋もベッドもトイレも広い！夕食は中華料理の店へ。個人的にチャーハンが今までの人生で食べた中でダントツにおいしかった。ここで現地ガイドさん登場。シーナットさん。可愛いです。日本語すごく上手です。

12月27日(火)

3日目

K.I (M) 小4

朝、ホテルで朝食を食べました。そしてピーちゃんと言う人と一緒に市内のキリングフィールドとツールスレーンへ行きました。独房や雑居房を見ました。そこには血がありました。殺されてしまった人達の写真もたくさんありました。他にも凄い数の頭蓋骨や骨も見に行きました。ピーちゃんに聞いたら、8980 人の頭蓋骨があると言っていました。それから昼ごはんを食べ、王宮に行きました。王宮の入口前で手や足の無い人達を見ました。王宮の中は凄く綺麗だった。彫刻の博物館にも行きました。そこにはエンマ大王や孫悟空、猪八戒などもありました。感想→戦争の時は怖かったと本当に思いました。

K.G (M) 中1

朝食はホテルでバイキング。バイキングの種類は日本よりは少なかったけどラーメンがうまかった。朝食の後、バスに乗ってツールスレーンに行った。C 棟は当時のままの状態で足かせをされた人が写真に写っていた。僕はこの研修に参加する前にキリングフィールドという映画を観たり、昔この博物館に来たことがある母親からツールスレーンのことを聞いていたけど、実際には想像していたよりももっとひどい状況だったことを知って驚いた。ツールスレーンの入り口のところでツールスレーンの拷問から一人だけ生き残っている人に会った。成田の研修のときにもしかしたら会えるかもしれないと聞いて会いたいと思っていたから会えてよかった。一緒に写真を撮って名刺をもらった。すごく貴重なのでパスポートカバーに入れた。その後、キリングフィールドに行った。ものすごい数の割れた人骨があった。外にはたくさん穴があいていて骨はすべてスカスカだった。目隠しされたままの人骨もあった。木のかたい棒でたたかれたり木に打ち付けて頭を割ったりしたと聞いたとき、本当に怖くて寒気がした。昼は中華だった。うまかった。

K.M (M) 中3

今日はツールスレーンとキリングフィールドに行き。カンボジアの負の歴史を見た。よくポルポトの独裁した

方法がよくわからなかったが、大変な事が起こってたのは事実だ。それも 1970 年代という最近。周りの国はこの状態を知っていたのかなと疑問に思った。もう二度とこの二つには絶対いかないが、人生の中で結構見ていてしんどかった。負の歴史は絶対にもう一度起らないようにしてほしい。

F.S (F) 高1

今日改めて私はまだ世界の現状も歴史も全然知らないんだと実感させられた。ツールスレンにいったとき、私はいつものように笑えなかったし、口数も減った。間近でみた、拷問の場所などはリアルでしかも空気がすごく厳しくて、1970 年代後半の日本が経済成長をし幸せをつかんでいくなかでたった飛行機で 6 時間程度離れた国が残酷な目にあったのが理不尽で、なんだか悲しかった。なぜポルポトは痛みや、悲しみを考えなかったのだろう。人間ではないのか？大切なのは新しくにでも、政治でもなく国民ではないのか？彼とその部下たちには亡くなった 300 万人分の痛みを味わって欲しかった。その時はもうカンボジアには人の死を悲しむ暇もなく精一杯で苦しかったのだろう。考えるだけで痛くて悲しかった。呆然とするしかなかった。私は亡くなった人の数に涙を流すのではなく、その一人一人の人生と家族と、そしてプノンペン郊外の人々の苦しみに涙を流し、これからの世界の成長を考えて欲しい。ピーロムさんも言っていたが、カンボジアの人々は一人一人もう 2 度と起こさないように教訓がある。日本の原爆のように、忘れてはいけない、背負っていくべき、語り継ぐべきことだと思う。今日は本当に疲れた、私は日本に生まれてよかった。

I.O (F) 高1

朝食はホテルのバイキング。その場で作ってくれたスクランブルエッグがおいしかった。そして新しいガイドさん登場。ピーロムさん。かっこいいです。本郷奏多をカンボジアっぽくした感じでしょうか。午前中はツールスレンへ。私は今まで、ポルポト政権のことも、虐殺のことも全く知らなかった。恥ずかしいことだと思った。しかも 1970 年代、自分の両親もとくに生まれているし、かなり最近のように思える。日本では高度経済成長のころ。そんな時に、人とは思えないような行為が、同じアジアで行われていたなんて信じられなかった。なぜこんなことを平気で行ったのか、死んでいく人たちを見て何も思わなかったのか、理解ができなかった。なにより、顔写真の生気のない目が、見ていて本当につらかった。独房は 1 畳あるかないかで、言葉も出なかった。生存者の方にも会うことができた。とても優しい顔をしていた。もう 89 歳だという。あんなにつらい体験をしてきたのに、笑顔がとてもやわらかかった。次はキリングフィールドへ。骸骨の多さに呆然とした。いくら改革を進めようとしたからと言って、人間をもののように扱う神経が信じられなかった。本当に信じたくないが、これが現実。私にはその現実を受け止める事しかできず、あの時死んでいった何百万という人々は、もうどうしようもないことに無力さを感じた。昼食はカンボジア料理の店。ピーロムさんいわく、カンボジアのテレビで日本の NHK が見られるらしい。ベప్పින්さんを見ているといっていてびっくりした。私でも見てません。午後は王宮へ。とにかくでかくてきらきらしていた。でも、ここにたくさんのお金をかけるなら、飢餓で死んでいく人がまだまだいるのだから、そういう人への援助とか、もっと違うところを優先させればいいのに、とってしまった。ラオスでも F が言ってた何とかなの絵ってやつは面白かった。長いから、意地になって全部動画でとってやろうと思い、ずっと歩いて、やっと終わったと思ったらあと 600 メートルはあるだろうという事実を告げられ諦めた。夕食のレストランはものすごくおしゃれな店。工夫の一つなんだろうけど照明が暗くてよく見えなかった。明日は日本文化紹介の機会が沢山あります。楽しみ！

K.I (M) 小4

朝食を食べて、くっくまに行きました。くっくまの人達はフラダンスを披露してくれました。僕達はけん玉、ピコ太郎、サッカー、書道をやりました。僕はピコ太郎をしてから、Kさんとけん玉も披露しました。サッカーはKが、書道はFとIが書きました。そして昼食を食べ、午後は光小学校に行きました。僕はまたピコ太郎とけん玉を披露して、折り紙も折りました。他にレインボーはお手玉、歌はFが披露しました。夜ご飯を食べて寝ました。感想→ピコ太郎をやるのが緊張しすぎて恥ずかしかったです。

K.G (M) 中1

朝食はいつものようにバイキング。今日もラーメンがうまかった。朝食の後、孤児院に行った。孤児院ではサッカーやけん玉をした。女の子が結構上手かった。みんなはホテルに帰ってからデパートに行ったが、僕とKは疲れてホテルに残った。その後、日本語学校に行った。KのPPAPが結構ウケた。夜は中華でマーボー豆腐が超うまかった。夜、ホテルに帰ってみんなでゲームをして、ホテルを出る準備をして12時ごろに寝た。夜中に腹が痛くなってトイレに行ってまた寝た。

K.M (M) 中3

今日は施設と日本語学校を行った。カンボジアに来て初めて現地の人にふれあった。はじめは少し不安だったが孤児院の子供たちの目は輝いていた。Kのかばんから財布が見えてて、盗まれてもおかしくない状況だったので盗まないか見てたんだが、子供たちは盗まなかった、多分先生にしっかり教育を受けてるんだなと思った。そこで感じたのは「教育は世界平和を実現させる」ということだ。多分子供たちにしっかり勉強とともに平和について教えていけば世界は平和に近くなるはず。また日本語学校でみんなが一生懸命に勉強していた。それは将来仕事になるからだ。今日1日は教育の価値と必要性をよく肌で感じる事ができた。

F.S (F) 高1

孤児院の子達を見て私は本当に強いなと思った。一人一人素敵な武器を持っていて、互いに協力し合うこと、受け入れること、自然と触れ合うことを当たり前にしていて。でも多分時々辛くなったりすることもあると思うし、施設に入った始めは泣いていたと思う。でも私達に明るく接してくれて、何事も挑戦してくれて、キラキラ輝いているなと思った。きっと子達は私達ができないことや、面倒臭いこともなんなくこなす。努力する。いくら整った環境にいても、いやむしろ整ったところにいるからこそ甘えるし、あっちやこっちに迷って結局は中途半端になってしまう。一つのことを極めていく彼らは強い、そしてそういう施設を作ったあの日本人の人達を心から尊敬する。昼に行ったマーケットは人々が思い思いに行き交い、たくさんの店が出ていてアジアな熱気が感じられた。若い店の人が日本語や英語で話してくれるのが嬉しかった。Inter National ではまだ小さい子供が英語の文法を一生懸命習っていてすごいなと思った。子供が本当に強い。帰りにHappy Birthday を歌っただけで30\$貰えたのは驚いた。Chinese は凄い。太っ腹すぎる。まだ3日目だが、貴重な体験ばかりで頭がパンクしそう。明日から少し不安だ。

I.O (F) 高1

朝食にフレンチトーストが追加されていた。おいしかった。午前中は孤児院へ。私たちのために2曲踊りを披露してくれた。なんていうか、だれ一人さぼったり適当にやったりしている子がなくて、みんな大きな声を出して、一生懸命でとても感動した。人前で恥ずかしがったりとかそういうのが一切なくて、全員が踊りを楽しんでいるのが伝わった。あとはひたすら遊んだ。子供たちはみんな「こっち!」とか「乗って!」と

か、日本語が自然に出てくる。あと、4歳くらいの女の子の自転車の練習に、2歳くらい上の男の子がずっと付き合っていていたり、4,5歳の女の子と16歳の男の子が遊んであげていたり、年上の子が年下の子の面倒を当たり前のように見ているなーと思った。北海道と大阪の子がいてびっくりした。ウサギを生まれて初めて触った！会って数時間しかたっていないのに、お別れのときはさみしくなった。車が見えなくなるまで見送ってくれてうれしかった。昼食は、一人ひとつソファアがあるようなぜいたくな店。10分ほど居眠り。起こされた後はマーケットへ。フロア一面宝石やアクセサリーを売っている場所があったけど、ほぼ偽物らしい。でもクオリティーが高い！カンボジアの果物、ジャックフルーツがかなりおいしかった。そのあとは日本語学校。ピーロムさん日本語検定2級持っているらしい。英語クラスでは、年齢がばらばらなのか、すごく幼い子から中学生くらいの子まで様々だった。みんなで鶴を折ったけど、かなり興味を示してくれた。日本語のクラスでは、生徒さんたちが頑張っていて日本語で話しかけてきてくれてうれしくなった。書道で頼まれた文字を書いてあげると喜んでくれた。夕食は中華の店。そしてピーロムさん結婚のお知らせ。奥さんすごくかわいい！

12月29日(木)

5日目

K.I (M) 小4

1日移動しました。途中、トイレ休憩をして高級レストランで昼食を食べました。やっと村に着きました。ホームステイをする家のお母さんが夕ご飯を作ってくれて食べました。お母さんや子供たちに用意してきたお菓子や遊び道具をあげました。感想→高級レストランのご飯がおいしかったです。

K.G (M) 中1

レインボーに起こされた。寝坊した。朝食を食べてホテルを出発。地雷博物館に行った。博物館にはたくさん地雷があって驚いた(こんなにたくさんの種類地雷があるんだと思った)。地雷はクメール時代のものだけでなく5年前にタイと戦いをした時にも大量に落とされたと知って、つい5年前にもそんなことがあったことに驚いた。その後、車で村に向かった。お昼は高そうなお店でバイキングを食べた。少しだけカエルの肉を食べてみた。少しだったからあんまわかんないけど、とり肉みたいな味だったかも。カエルとわからずに食べたら美味しいと思う。村に着いた時は少し緊張していたが、みんなでお菓子を食べたりして緊張がほぐれた。

K.M (M) 中3

午前中、地雷博物館に行った。結構なぞな歴史だったが、実際に触りいろんな意味で重みを感じた。その後ついにトロコピアンコ村に行った。すごく不安だ。普通に考えて電気のない貧しい村に住んでる人からしたら「金持ちの国から何しに来たんだよ。」と思うでしょう。意外にホストファミリーはいい人だったのと飯が意外にうまかった。

F.S (F) 高1

朝地雷博物館へ行った。今までテレビなどで地雷について、見て来たがこんなに身近に地雷を感じたのは初めてで、火曜日と同じく呆然と眺めていた。授業で地雷は一つ二百円や三百円で買える物もあると言っていた。たったそれだけで簡単に人を傷つけられるなんてとても理不尽だと思った。それにタイはカンボジアが地雷で苦しんでいるのを近くで知っていながらまた埋めてしまうなんていつになったらカンボジアの人々は安心して暮らせるようになるのだろうかと思しくなった。昼ご飯を食べた所は、かなり豪華で日本でもそうそうないようなレストランに興奮した。村に向かう前、私は不安と心配しかなかった。高床式の住居で日本

人が一番気にする清潔とは遠く離れたところで私は生きていける気がしなかった。でも実際に村に入ると子供達が遊びまわり、水を浴びたり、竹の気持ちいい床や地面から伝わる自然の熱に心が癒された。言葉は全然通じないけどジェスチャーや本で伝わるし、何よりよく笑うし、日本にいる時よりもホテルにいる時よりも私は幸せを感じられた。都会にいる人が時々田舎に帰りたくなる気持ちがわかる。ちなみに水浴びはとも気持ちよくて、村にいる中で一番の楽しみは水浴びになった。ガタガタ道路も裸の子供も大好きだ。

I.O (F) 高1

ホテルでの最後の朝食。おいしかったです！そしてガイドさん登場。リーさん。可愛い系です。午前中は地雷博物館へ。地雷を踏んだ直後の写真を始めてみた。足が真っ黒で、肉が見えていて、何も知らない子供でもこんな目に合うことがあるのだと思うと恐ろしくなった。まだ取り除けていない地雷も多く、まだカンボジアの争いは終わっていないのだと思った。昼食は今までで一番豪華だった。バイキングの中に日本食も発見した。カエルも発見した。チャーハンがおいしい！そしていよいよ村へ。車で走っているうちにどんどん建物が無くなっていき、道が凸凹になっていった。バイクに乗っている後姿がかわいい村長さんも加わり、まだ進むの？と思うほど奥に進んでいくと、やっと村が見えてきた。話に聞いていた通り、高床式の建物が並んでいた。車を降りると、すぐに子供たちがもの珍しそうに寄ってきた。私とFとシーナットがホームステイする家は、お父さんとお母さんが医者で、たぶんこの村の中でも上流の家。それでも、高床式で下には家畜がいて、常に牛のにおいがするよう家だった。でも、床は竹で気持ちいいし、これはこれで住みやすいのかも。家に上がってすぐ子供たちがそばに来た。みんなすごく人懐っこい。よく日本人が来るし慣れているのかも。さっそく竹トンボやシャボン玉で遊んだ。ちょっと目を離れた間に、竹とんぼがめっちゃめっちゃうまくなっている男の子がいた。ボールは遊びすぎてすぐ空気が抜けた。お風呂は井戸の水を浴びるのみ。寒い！井戸から水をくみ上げるのが意外と難しく、私がやってもバケツの10分の一くらいしか水が入らなかった。バケツ満杯に水を入れて組み上げる現地の子たちとFをすごいと思った瞬間だった。夕食は卵焼きと豚肉。かなりおいしい！そのあとは寝るまで子供たちと遊んだ。日本からのお土産を一気に配った。とにかく子供たちが多くて、どこの家の子なのか、どの子がホストファミリーなのか全くわからなかったけど、みんなお土産に興味津々で、一つものを取り出すたびにみんなが注目するのでマジシャンにでもなった気分だった。お菓子も即完売。カンボジアの子たちは、人数は多いけど、お菓子を配ると、ちゃんと全員にいきわたるように配慮していた。まだ食べていない子に分けたり、お母さんにあげて、と言ったり。男の子も女の子も楽しんでくれたのでよかった。みんなと離れて一人でこっちを見ているような13歳の男の子がいたけど、算数ができるらしく、筆算を次々と成功させていた。シャイなの？思春期かな？数学が本当にできない私にとってはうらやましい限り。夜になったら家の中もかなり暗い。懐中電灯が本当に役立った。お母さんが蚊帳を張ってくれて、8時半くらいには寝た。夜は結構涼しくて過ごしやすい。

12月30日(金)

6日目

K.I (M) 小4

朝食を食べ、9:30に出発して村の小学校へ行きました。小学校では、ピコ太郎、僕が通っているミュージカルレッスンで習った「夢を叶えてドラエモン」を踊り、けん玉、折り紙、じゃんけんをしました。帰る時、歌を歌いながら帰りました。昼ご飯を食べて僕は洗濯をしました。そして日記を4時間かけて書きました。村の子供たちと仲良くなりました。感想→ホストファミリーの子供に鬼の絵を描いて笑ってくれたのが嬉しかったです。

K.G (M) 中1

朝、谷口さんに起こされた。その後、村の小学校に行く準備をして小学校に行った。小学校ではみんなでツルを折ったりした。ツルはみんなしっかりと折れていた。その後、PPAPをやったり妖怪体操、ドラえものの歌などをやった。みんな楽しんでくれた。その後、けん玉をした。けん玉は1回しか成功しなかった。最後に僕が作った銀色のツルや折り紙で作った鳥や折り紙を渡した。村に帰ってきてから昼食を食べた。いつも通りにご飯とおかず。うまかった。その後、昼寝をした。夜は星を見た。日本はネオンの光とか家の光であんまりくっきり星が見えないけどカンボジアはよく見えた。

K.M (M) 中3

今日は小学校に行った。小学校の子とサッカーをした。みんな目が輝いてた。午後は昼寝して、またサッカーして風呂に入り洗濯した。我々からしたら考えにくい1日だった。あと一つ思ったのが意外に子供たちは午後学校から帰ってきて暇だった。もちろん児童労働させるよりは何倍もマシだが、なんか農家の手伝いや勉強をさせた方がいい。そしてもっと子供たちに勉強する環境を整えるべきだと思う。

F.S (F) 高1

とにかく子供が元気すぎる。何時間遊んでも飽きないし、むしろどんどん元気になる。ついていけない。でもこんなに難しいことを考えずに騒いだり、じゃれあうことって日本ではそうそうないことだし、人と人の距離が近くてとても癒される。小学校では始めはなかなか楽しめないこともあったけど、後半はボール遊びをしたり、紙飛行機と一緒に飛ばして遊んだりしたのは本当に楽しそうでこっちも嬉しかった。小学校では生徒たちの活気あふれる雰囲気味わえてとても楽しかった。午後からずっと子供達と遊んでいた。体力が尽きるまで遊ぶし、なんだかこちょこちょ遊びにハマっているみたいでずっと追いかけていた。きつい。縄跳びの縄でカンボジアの伝統的な遊び方を教えて貰えてこの子供達も一生懸命頭を使って遊んでいるんだなあと思われた。土や人に米に直接接触して生きて行くこの暮らしはすごく身にしみる心地よさがありずっとここにいるのもいいかもと思えた。日本人らしくないが、汚いとか嫌だ、不便と思うことはほとんどなく、むしろあんなに綺麗に生きている暮らしに窮屈さを感じている。子供達の笑顔に囲まれる日々は本当に幸せです。ずっとここでいい。

I.O (F) 高1

今日は朝の4時前に目が覚めた。昨日8時半には寝ているので、かなりの睡眠時間。ここでは、暗くなったら寝る、明るくなったら起きる、というまさに原始人みたいな生活。でも、それが人間の本能だし、そっちの方がずっと健康的だと思う。いつまでも暗くならない日本の空よりずっと落ち着ける。鶏の鳴き声で目覚めるとか、漫画かと思った。外に降りたら、女の子たちが水汲みをしていた。朝早く起きて、大人の手伝いをして、日本の私とは大違いだった。自分で水を流す式のトイレにはもうラオスで十分慣れているのでどうってことなかった。午前中は村の小学校へ。やっぱり書道はどこでやっても興味を持ってくれる。折り紙を折ってあげたらすごい勢いでせがまれた。紙飛行機ですごく喜んでくれてうれしかった。午後からはずっと子供たちと遊んだ。折り紙が大人気。かなりの枚数を折ってあげた。あとなぜかみんな、くすぐりあう遊び(?)が好きで、ずっと走り回ってまわりつかれてかなり疲れた。Fが外で子供たちと遊んでいる間に、1時間ほど仮眠をとった。冷たい井戸水を浴びて、おいしいご飯を食べたら、また遊んだ。女の子たちは絵を描いたり書道をするのが好き。男の子たちは家の中でも外でもボールで遊んだり走り回ったり。みんなそれぞれ性格があって、基本的にもものすごいまわりついてくるけど、そこまで積極的じゃない子もいるし、13歳の男の子は相変わらずみんなからちょっと離れて見ている感じ。でも日本のものに興味はあって、だれも

見ていないところでこっそり使ってみる、という感じ。かわいい！今日も寝るのは8時半くらいかな。

12月31日(土)

7日目

K.I (M) 小4

朝食を食べてから暇でした。なので農業を見に行こうとしたけど、途中で雨が降ってきてしまったので戻りました。でも雨が止んだのでお寺に行くことにしました。道を曲がって橋を渡りお寺に着きました。僕は帰りにオレオを買おうと思っていたけど、財布を忘れてしまって困っていたらリーさんが買ってくれました。そしてKくんが自転車をしていたので僕も乗りました。まっすぐまっすぐ進んでいると危険な場所へ行ってしまう戻りました。でも3人で3キロ位走って、違うお寺に行きました。また帰りにポテトのお菓子を買おうと思ったら通り過ぎてしまいました。感想→自転車が楽しかったです。

K.G (M) 中1

朝から昼寝をして、その後、歩いて畑まで行こうとしたが、畑に行く途中で雨が降ったので引き返してきた。雨がやんだので今度はお寺まで行った。お寺は色鮮やかできれいだった。その後、家に帰ってからリーとまたお寺まで行っておかしを買った。自転車の後ろに乗ってスリルがあって楽しかった。その後は、谷口さん、リー、レインボー、K、俺でサイクリングをした。だいたい3Km くらい自転車をこいだ。道はガタガタだったけどそれが面白かった。帰ってから水浴びに行って、着替えてK と二人で自転車で寺まで行った。寺から帰って家の人に自転車を返して昼寝した。夜、起きてご飯を食べた。その後、みんなで折り紙をした。

K.M (M) 中3

今日は特にやることを決められてなかったので寺を二つ回った。すごくでかい寺でよかった。そして今日一番よかったのが、夜の星空。電気がないから暗いので、きれいだった。プラネタリウム以上だった。多分残りの人生であるのを見れることは少ないでしょう。いずれ世界的に発展して行って、あの星空は見れなくなるのでしょ。大晦日の今日に世界トップレベルの星空を見れて最高の気分だ。

F.S (F) 高1

昨日ずっと今日1日ずっと子供達と遊ぶなんて辛すぎると思っていた。だって昨日の何時間かの遊びですらきつかったのに。でもそんなの杞憂で、疲れるというよりもむしろすごく癒されている自分がいた。子供達の中で特に仲良くなったのが Nej という子。女の子で私が髪の毛をいじってあげてから仲良くなった。彼女は多分おしゃれが好きだと思う。後、写真も。私が持って来たおしゃれ道具をよくいじっていたし、snow のアプリをいじるのがすごく好きらしい。まあ服は大体いつも同じだけど。彼女は多分頭が良い。7歳だけど、まず少なから英語が話せる。それに携帯の使い方とか、少しやってみせるとよく使い方を理解して、それに応用もしていた。これには驚いた。そして後半、とても書道にハマったらしく、習字道具で絵を描いたり、漢字を見よう見まねで書いてみたり、計算したりときっと筆が好きなんだろうなあと思った。ただ一つ失敗したなと思うことが、子供達にスマホの面白さを教えてしまったこと。外で遊んでいるとスマホを目ざとく見つけて群がるようになりスマホを触っている時間が長くなりすぎた。これは誤算。子供達にはスマホを教えたくなかった。だって村の子供が、日本の子供みたいになったらすごく悲しいから。気をつける、次は。ずっとテレビばかり見ていた男の子がやっと私達に興味を持って来てくれた。笑うようになったし、その子は計算が好き。でも少しいつも間違っていて、それが可愛い。13歳なのに小学校に行っていて、それでも楽しそうにしているから、つくづくカンボジアが不思議。とにかく1日有意義に過ごせたのでめでたしめでたし。

I.O (F) 高1

大晦日です。日本の皆さん、元気ですか。こちらは35度です。そんな大晦日の今日は、一日中子供たちと遊びっぱなし。子供たちはスマホとかデジカメにすごく興味を持つ。ずっと触っている。いつの間にか使い方を覚えて、知らない間に盗撮されたりする。ほかにも、縄跳び、折り紙、ボール、紙風船、シャボン玉、書道、お絵かきなどをして一日中遊んだ。遊んでいるとあっという間に時間が過ぎる！今日のお風呂では久しぶりにシャンプーとリンスを使った。暗くなるまで外で遊んだあと、部屋でお絵かきやデジカメ。13歳の子、私から行かなくても結構自分からこっちに来るようになった。そして懐中電灯を私に当て続けるといういたずらをするようになった。この家は本当に子供の密度が高い！昨日はいなかった新入りもいつの間にか加わって遊んでいて、あれ？誰？みたいなのがかった。常に入口に扉がいているから、だれでも入ってくる。今日の夜は、年越しをするためにカンボジア時間の10時まで起きてた。日本時間の0時までバックミュージックをかけながら書道をして遊んだ。日本で除夜の鐘が鳴っているであろうときに、私たちは高床式の家の中で、だれも新年おめでとうムードじゃないカンボジアで、3人で正座をして年を越しました。こんな正月も悪くない。

1月 1日(日)

8日目

K.I (M) 小4

朝食を食べてまた暇でした。それから谷口さんとリーさんが、1時間半位かけてカレーに使う材料を買ってきました。買った材料は、玉ねぎ、人参、じゃがいも、まめ、カボチャ、肉です。お母さんと一緒にカレーを作りました。おいしそうなおカレーができました。とってもおいしかったです。そして、お母さんにクメール語で手紙を書きました。村とお別れをしました。ホテルに行く途中にアヒルの卵を食べました。コショウをかけて、おいしかったです。ホテルに着き、夜ご飯を食べて寝ました。

感想→みんなで食べたカレーがおいしかったです。

K.G (M) 中1

朝、起きたら寒かった。K がはじからはじまで移動してた。朝食を食べた。お米とたまご、肉。すべておいしかった。朝食を食べてから家の子と一緒にけん玉をした。家の子は三回くらい成功してた。その後、みんなでカレーを作った。俺はえだまめと人参の皮むきしかなかった。カレーは超うまかった。三回おかわりした。その後、感謝の手紙を書いた。クメール語がきれいに書けた。その後、車に乗ってシムリアップのホテルに行った。ホテルはプノンペンのホテルより広かった。夜はワニの肉を食べたがワニ肉のシールがなくてどれがワニ肉だったかはわからなかった。あと、店のスクリーンでターザンをやっていた。

K.M (M) 中3

今日はカレーを作りました。そしてついに村とはさよならだった。多分この村に人生で来る事はないでしょう。カンボジアの裏の部分が見れてとっても良かった。しかし我々は恵まれてると思う。トロコピアンコ村ありがとう。そしてその後シムリアップに行きました。夕食を食べて、ナイトマーケットに行った。すごく発展していて村とのギャップが大きすぎた。そしてホテルが最高。ナイトマーケットではいろいろ買えてよかったが、なんだが金銭感覚がわからなくなった。つつい日本の物価とくらべてしまう。みんな生活が懸かっていると感じた。

F.S (F) 高1

びっくりした。あんな台所で料理をするんだと。でもそこからは良い匂いがたちこめ、みんなで床に座りな

がら木の板の上で野菜の皮をむいたり、切ったり、火から逃げながらも一生懸命煮たりするのが楽しかった。初めて、料理をするのが楽しいと思えた。丸ごと肉が売られているのを切ったことがないからすごく難しかった。村の子達は器用に包丁で皮をむいていて、ピーラーを使ってゆっくりゆっくり皮を剥く自分が恥ずかしいなと思った。家でも頑張ってみよう。ここの高床式の台所はなんだか懐かしくて、心地よかった。家の中では一番この台所が好きかもしれない。カレーは少し水が多くてスープカレーみたいになっていた。でも村の子が三杯おかわりしたりして、美味しいって思ってくれてるのかなと嬉しかった。そして、お別れ、村の空気は澄んでいて、星も綺麗で、名残惜しかった。毎日の生活をこうやって穏やかに過ごせるなんて幸せだなと思った。おばあちゃんにはここにすみなさいって言って貰えて、ほんとうに住みたいと思った。もう一度来たい。ちゃんとクメール語を習って。そして村の人々と同じように生きたい。あの村で私はなんとなく幸せとはなんだろうか少しわかった気がする。午後シムリアップまではずっと寝ていた。疲れていたのだろう。気持ちいい疲れだった。シムリアップはすごく活気に満ち溢れていた。正直首都よりも。レストランではちょっとハプニングもあったし、料理も微妙だったけど、シムリアップの夜の光景に感動してそれだけで楽しかった。レモンジュースすごく美味しかった。そして、ナイトマーケット。いやあ、なんて良いお値段なのだろう。まずは言われた値段の半分以下からトライしてみた。自分では頑張ったはずだがまだまだ。もっと頑張れる気がする。こちらのワンピースは凄く色鮮やかで綺麗。私はワンピースに惚れて友達のぶんもたくさん買ってしまった。私はきつとこちらの文化が好きだ。色鮮やかで綺麗。面白い帽子も買ったし、十分かも。今日は面白かった。

I.O (F) 高1

あけましておめでとうございます。そんな元旦も子供たちと遊びまくりです。このホームステイ中に、白いTシャツはすべて茶色に染まりました。洗濯しても落ちません。これもいい記念！昼食に、私たちがカレーを作った。お父さんは2杯おかわりしてくれて、3杯食べてくれた子もいた。お礼のメッセージを書き終えたら、まさかのペンで顔に落書きされる。水性でよかった。あっという間に時間は過ぎて、お別れのとき。村長さんの家までみんながついてきてくれた。そこで初めて会った子達と30分ほど遊んで、村とお別れ。ついた時にはここで楽しく過ごせるだろうかと思ったことがうそのように、村を離れることが本当にさみしかった。ホームステイ中、言葉はほとんど話さなかった。シーナットがいたのもあるけど。子供たちとはほぼ笑顔でコミュニケーションをとった。それだけであんなに楽しい毎日を送れた。また少したってからトロピアンコ村に戻って、成長した子供たちを見てみたいと思った。町へ向かう途中で、アヒルの孵化させる前の卵を食べた。見た目を何とかしてほしいけど、味は胡椒がきいて本当においしい！外見にとらわれちゃだめだと知った。夕食は鍋の店。アヒルでおなかいっぱいになかなか食べられず。そのあとはナイトマーケットへ。ここで土産全部買った。ものすごい量を買った。ホテルはすごくおしゃれ。リーさんとお別れして部屋へ。村でついた土を落とすのにかなり時間がかかった。明日からは観光です。

1月 2日(月)

9日目

K.I (M) 小4

朝食を食べて、今日は気球に乗りました。日本とは違う火を使わない気球でした。そしてアンコールトムに行きました。顔が4つあって東西南北に向いていることや、水の神様の象などを教えていただきました。次にアンコールワットに行きました。すごくてかかったです。コウモリもいました。昼食を食べ象に乗りました。葉っぱを使って口笛のように吹いていました。アンコールワットが見渡せる山にも登りました。トロピアンコ村まで見えました。感想→アンコールワットが見られて嬉しかったです。

K.G (M) 中1

朝起きて朝食を食べた。その後アンコールトムに行った。アンコールトムにはたくさん石があってすごかった。その後、昼食を食べた。昼食はどんどん食べ物が出てきて全部うまかった。その中でも肉とピーマン、ニンジン、玉ねぎの入った炒め物が特にうまかった。その後、今度はアンコールワットに行った。アンコールワットの中にはたくさん壁画が描かれていて驚いた。アンコールワットの中にはたくさん大きな風呂があったのも驚いた。アンコールワットの中心にある大きな建物の階段が高くて急でちょっとこわかった。その後、20ドル払って象に乗った。象に乗ろうとしていた太った人が、太っているからおろされていたのがかわいそうだった。象に乗る前は少しドキドキしたけど乗ってみると面白かった。降りた後で象の髪をさわったら太くて驚いた。

K.M (M) 中3

今日はアンコールワットに行きました。なんだがすごかった。あれは世界遺産だ。日本人もたくさんいた。アンコールワット行っただけでカンボジアわかった気になるなと思った。結局山の山頂に登れず、日の入が見れなかったがしょうがない。なんだか疲れた1日だった。日本人の多さには本当にびっくりした。観光でカンボジアに行こうとは思わないが、アンコールワットだけみて帰るのはそんなにおもしろいかな？少しプライドを高ぶってる部分がある日本人である。

F.S (F) 高1

人生初の世界遺産！アンコールワットに行けるなんて最高！嬉しい！と思ってたけど。暑い。とにかく暑くて人が多い。楽しかったけど。今日初めてアンコールワット以外にも何個かアンコール系があるのをした。アンコールは町という意味。昔の王宮の人達が神様の町として作った大きすぎる寺院みたいなものだとソーちゃんは言っていた。写真を撮らないといけないというのが世界遺産らしくてテンションが上がった。まずは気球のところに入った。あれで20ドルだなんていい商売すぎる。私は百メートルにそんなお金は払えん。結局乗った2人はしゃがんで景色は見ないわ、金ばら撒くわでカンボジアの人を肥えさせただけだった。勿体無い。アンコールトムの入り口の像の頭が無くなってるのは知っていたがやはり可笑しいというか、まあ、さすがとも思った。途中川に飛び込む少年がいて、こうやって世界遺産が子供たちに仕事の場所をも作っているんだなあと新たな発見があった。そして、世界遺産が侵略戦争や宗教戦争なので痛めつけられているのは痛々しかった。完全型を見て見たい。私は国際理解の授業でラマヤナを習っているから壁にかかれた絵を見てとても感動した。勉強がこんなとこに生かされて無駄じゃないんだなあと思った。鳥の糞から生まれた木が建物を食っている姿はとても歴史を感じて世界遺産と言われるのが分かった。時の力はすごい。いよいよ、アンコールワット。絆橋は長く歩くのがなんだか楽しかった。アンコールワットは想像以上まではいかないがでかくよくテレビで観れる写真が撮れて興奮した。そしてこの八日間よく頑張ったとなんとかゴールについての気もした。中はアンコールトムと似ていた。途中西洋の人とも話せて楽しめた。そして象に乗れる！こんな体験できるわけがない！乗り心地はいい、全然揺れんし、賢い象。途中ゾウ使いが吹く葉の笛が凄くクオリティが高かった。プノンバケンには登れなかったがたくさん待ち時間で話せて楽しかったです。レストランではショーはすごく綺麗で珍しくて、感動した。1日が終わる。カンボジア最高。

I.O (F) 高1

朝食はバイキング。トーストを3回焦がして、しまいにはスタッフの人に苦笑いされながら焼いてもらった。いい思い出！今日から3代目のガイドさん。ソーちゃん。マイペースです。そんなソーちゃんに連れられてアンコールトムへ。めちゃめちゃ暑い！！説明を聞いてなるほどと思うけど、暑すぎて車が恋しくなる。ア

ンコールワットは教科書にも載っているの、実際に見れてよかった。カンボジアの空は真っ青で、遺跡がよく映えていた。大きな大木が遺跡をどんどん壊しているのにはびっくりした。自然の生命力を感じた。建物の上にも上った。よくこんな大きな建物を作ったなーと思った。夕日が見える建物に上るために、象に乗った。象使いさんが葉っぱでいろんな曲を吹いて楽しませてくれた。結局夕日は見られず。空腹と足の痛さでかなり疲れた。夕食はバイキングのレストラン。舞台上踊りをやっていたけど、明らかに中学生くらいの女の子も混ざっていてびっくりした。衣装も豪華で、とてもきれいだった。ラオスでも同じような踊りを見た。今日はたくさん歩いて疲れた。明日でカンボジアともお別れ。最後まで楽しみたいと思う。

1月 3日(火)

10日目

K.I (M) 小4

朝食を食べてから、トンレサップ湖へ行きました。ここには水上で生活している人たちがいます。チケットをもらって船に乗りました。ワニやナマズを見ました。僕はニシキヘビを触りたかったので、お姉さんに1ドルを払って首に巻きました。感想→ニシキヘビはでかくて重かった。

K.M (M) 中3

今日は水上生活者を見た。ボートを乗りヘビとワニがいるところに行きなんだがわからない気持ちだった。そして帰りのボートで船のつばさの所に座れて、ボートを運転できた。よかった。そしてカンボジアとはここでお別れだ。いろいろと良い部分、悪い部分、学びたい部分、学んでほしい部分、いろいろ感じる事ができた。深い研修になった。ありがとうみんな。

F.S (F) 高1

朝からやる事がないという！寺に行っても皆んな盛り上がらない、結婚式観れて楽しかったけど。デパートでは一文無し私と5ドルのOさんは悲しくアイスクリームを食べていた。まだ時間があつたからゆっくり街を2人で歩いてみた。怖いけど、いい経験だった。昼はトンレサップ湖。え！？ほんとに水上生活！船の家みたいな。でもなんだかスリルがあつて私は生活してみたいと思った。船の運転手がイケメンだった。お店にはワニが養殖されていて、剥製など買ってみたかった。ワニが沢山いるのは初めて。怖いけど嬉しかった。蛇はさわれたけどさすがにべたべた距離は近づけれない。帰りの舟では運転体験ができた。エンジンブオーンとならして下手さが滲んでいた。こんなとこでできるとは思わなかった。舟の前は風が気持ちよくてずっと乗っていたかった。そして、カンボジアともおさらば。シーナットともおさらば。十日間シーナットがいなければ楽しむ事もできなかつただろう。まだ会おうねといった。ちゃんと実行すべき。カンボジアの空港は豪華。しかも割と広いという。地面に座る姿になんとか感動してしまった。さらば！楽しかったぞ！ホーチミン空港は長くて、まずバーガーキングでご飯食べたけど時間があまりすぎる。ショッピングもしてみた。ベトナムもちゃんと観光してみたい。最後は話したりで時間を潰した。さらば外国。カンボジア最高だ。

I.O (F) 高1

カンボジア最後の日！午前中は水上生活者のところへ。意外と家の中に物が多かつた。学校や病院もあつて、水の上でも生活が成り立っていることに驚いた。私達からすると、水の上で生活するなんてありえないし想像もできないけど、現地人は水の上で普通に生活をして、それが当たり前で、なんか異国の文化って素晴らしいと思った。ボートの先端に乗れたのも楽しかった。もうこれでカンボジアの旅も終わるのかとさみしくなつた。空港でシーナットとお別れ。長い飛行機の旅が始まつた。ベトナム空港ではほとんど寝て過ごし

た。眠い！

1月 4日(水)

11日目

F.S (F) 高1

7時45分。成田に到着。飛行機の中でOさんが相変わらずずっと寝ていた。空港では三人の親がきていて、名残惜しさもなくお別れしたのが私達らしかった。ばいばい、きゃ！折角関東来たのだから観光したいと思い浅草に高田さんに行った。久しぶりの日本は綺麗。高田さんのガイドがよくて、初めて有意義に2時間で、観光できた。カンボジアの旅が終わる。男子三人組に会えてよかった。うるさかったり、呆れたりしたけど良かったと思う。ぐっさんは色々知っていて頼りになった。またぐっさん同行で同じメンバーでどこかまた面白い国に行きたい。

I.O (F) 高1

成田空港は寒かった。そういえば日本は真冬でした。正月気分も、日本に帰ってきたという感覚も全くないまま高田さんと再会。10日間、あっという間だったけど、日本にいたら決してできない体験をたくさんして、自分にとって大きな財産となった。アンコールワットにはたくさんの日本人がいたのに、ツールスレンやキリングフィールドでは全く日本人を見かけなくて、有名な観光名所だけじゃなくて、カンボジアに来たなら、負の遺産も自分の目で見て帰る必要があると思った。知るべきだと思うし、暗い歴史があったことを知らないまま、観光だけして帰っていくのはもったいないと思った。でも、よく同じ過ちを繰り返さないように、というけど、それならなぜ世界では紛争が絶えないのだろうと思う。将来は世界で働きたいと思っていたが、今回カンボジアを訪れて、その気持ちが一層高まった。これから自分の進路に向けて努力し、もう一度カンボジアを訪れてみたいと思った。

感想文

僕の大冒険カンボジア

K.I (M) 小4

冬休み、僕は初めての海外に行きました。カンボジアです。到着したのは夕方、とても暑かったです。次の日、ツールスレーンとキリングフィールドと言う場所を見学しました。ポルポトによって沢山の人が殺されて苦しんだ場所です。約9千人の頭蓋骨や体の骨を見ました。子供や赤ちゃんもいます。いろんな酷い写真も見ました。すごく怖かったです。その時に生きていた人たちは、もっともっと怖かったと思います。ポルポトなんていなければよかったのに。もう二度とあんな酷い事が起こらないでほしいです。そして次の日は、学校へ行きました。すごく緊張したけど、みんなの前でピコ太郎やけん玉をしました。そうしたら、すごく盛り上がり一緒にやってくれました。とても楽しそうでした。みんなで折り紙もしました。カンボジアの人たちは、真剣な顔で一生懸命でした。日本の折り紙を覚えてくれるなんて嬉しかったです。そして四日目、一番楽しみだったトロピアンコ村にホームステイに行く日です。村に行く前に、地雷の博物館で戦争や爆弾の話を見ました。本物の地雷もさわりました。まだ沢山の地雷が埋まっているので、早く無くなる日が来て、手や足を怪我する人がいなくなってほしいです。戦争は本当に怖いと思いました。やっとトロピアンコ村に着きました。村のお母さんがとても優しくそうで安心しました。僕は沢山用意してきたお土産を、早速お母さんと家族にあげました。みんな喜んでくれました。次の日、村の小学校に行って、歌やダンス、じゃんけんなどで、生徒たちと沢山遊びました。この日は、村の子供たちとも、とても仲良くなりました。僕が絵を描くと笑って喜んでくれたのが、すごく嬉しかったです。また次の日は、なんと自転車を借りてお寺までサイクリングをしました。約3キロも走って嬉しかったです。楽しい時間はあっという間で、明日はとうとうお別れの日になってしまいました。この日の夜は、とても寂しくなりました。次の日、お世話になったお礼に、僕たちでカレーを作りました。なかなか美味しくできたと思いました。この日だけは、お母さんたちと一緒に食べられたのがすごく嬉しかったです。お母さんが3日間作ってくれたご飯も本当に美味しかった。最後にお母さんにクメール語で手紙を書きました。喜んでくれました。またトロピアンコ村に行って、お母さんや仲良くなった子供たちに会いたいです。トロピアンコ村の生活は僕にとって最高でした。一生忘れません。カンボジアの旅も残り二日間。まずはカンボジアの気球に乗りました。日本の気球は火を使うけど、カンボジアの気球は火を使わず風船のように浮かびます。僕は高い所が好きなので気持ちよかったです。そしてアンコールワットにも行きました。物凄く大きかったです。因みにコウモリもいました。大きな象にも乗りました。そのあとは岩の階段を登り一番高い場所へ行きました。そこからはアンコールワットが見渡せて最高の景色でした。そして最終日は、水の上で生活している人たちの所へ船に乗って行きました。ワニやナマズを見て、そのあとに1ドルを払って大きなニシキヘビを首に巻かせてもらいました。ニシキヘビはでかくて重かった。でもおとなしくてかわいかったです。ただ思った事は、この水はとてにごっていて、その水で生活しているのは心配になりました。日本のように当たり前水道からきれいな水が出て、平気で飲めるようになってほしいです。僕が大きくなってお金がたくさん貯まったら、水道を作って、家を丈夫にして、温かいお風呂を作ってあげたいです。いろんな事があった十日間だけど、僕にとってカンボジアは最高の旅でした。また必ず行きたいと思います

カンボジアで感じたこと

K.G (M) 中1

夏休みにテレビでカンボジアの内戦のことを知り、カンボジアについて調べていてこの研修を知った。僕の家は両親が青年海外協力隊に行って、今も国際協力の仕事をしているので、自分もこの研修で何かを感じたいと思って参加した。でも、出発が近づいてくるとだんだん不安になってきてクリスマスもあまり楽しめ

なかった。成田での事前研修は最初は緊張したけど、みんなでゲームをして緊張がほぐれて少し安心した気持ちでカンボジアに行けた。日本からカンボジアに着いた時はすごく暑かった。空港からホテルまでのバスから外を見て驚いたことが二つあった。一つは子供が普通にトゥクトゥクを運転していたこと。二つめは野犬の多さ。日本では野犬は見たことないのでびっくりした。3日目にツールスレン虐殺博物館に行った。その部屋で何があったのか本物の写真があって余計に怖かった。血の付いた床や真ん中がへこんだベッド、ベッドにつながった足かせを見て、ここで拷問されて殺された人はどんな気持ちだったんだろうと想像した。その後、キリングフィールドに行った。映画や写真は見ていたけど、実際に行ってみたら一つ一つの骨に穴があいたりひびが入っていた。目隠しをされたままの骨もあった。骨が碎けるほど暴力されたり銃で撃たれてここで殺されたと思ったら鳥肌がたった。キリングフィールドではキリングツリーと魔法の木という2本の木が印象に残っている。キリングツリーは多くの赤ちゃんや子供が足をもって逆さづりで頭を打ちつけて殺された木で、その近くに魔法の木があった。僕は最初、この名前を聞いて「この木に逃げ込んで多くの人が助かったんだ」と思ったけど全く違って、近くの中国人工場の人に虐殺がばれないようにこの木にスピーカーをつけて革命曲を大きな音で流していたということだった。なんで魔法の木なのかはわからなかったけど、この木がなければ、もしかしたら助かった人がいたかもしれないと思ったら悔しい気持ちになった。孤児院では子供たちはみんな元気で明るかったけど、親がいないんだと思ったら悲しくなった。地雷博物館では、5年前まで新たに地雷が投下されていたと知って驚いた。何もしていない人まで巻き込む地雷の恐ろしさを感じた。村のホームステイでは村の人たちと遊んだりサイクリングをした。正月の朝は寒くて目が覚めたけどいい思い出だ。ご飯もおいしかった。村は楽しかったけど、最終日に僕がクメール語で書いた手紙を渡したとき、お父さんとお母さんは字が読めなくて子供に手紙を渡していた。最初、僕の字が下手だからかと思ったけど、子どもが読んでるのを聞いて親は字が読めないんだとわかった。両親が子供の頃はクメールルージュによる原始社会政策だったことに気づいてドキッとした。カンボジアに行く前には、元少年兵の人とかプロのスリ師の人がたくさんいる印象があってちょっと怖かったけど、実際に行ってみたらみんなすごく優しくしてくれてカンボジア人のイメージが変わった。村での生活では電気や水道、テレビなど日本では当たり前前に思っていたもののありがたみを感じた。10日間の集団生活の中では調子に乗ってしまい失敗してしまったこともあり反省している。この研修で感じたり、気づいたり失敗したりしたことを、しっかりとこれからの人生にいかしていきたいです。お世話になったみなさん、オークン！

カンボジア研修について

K.M (M) 中3

カンボジアに行き行って感じたことは4つありました。

1つ目は「教育」についてです。孤児院と日本語学校を見て、みんなしっかり将来の事を考え、それぞれの勉学に励んだり、バンドを練習したり、サッカーを学んでいました。そこで感じたのは教育こそ一番の財産になることです。それは家族にとっても、国にとっても、世界にとってもです。そして教育が世界平和を実現する唯一の道だと思いました。子供の時にしっかりと教育させて、戦争はいけないことだと世界中の子供にしっかりと教えれば、少なくとも15年後の戦争は減るに違いありません。世界の貧しい国が、なかなか裕福にならないのは子供に仕事させて教育を受けさせないからです。長い目で見たら今は負担になってでも子供に教育を受けさせて新しいビジネスをした方がいいのではないのでしょうか。だから、ユニセフやジャイカはもっと教育を受けれる環境を作るべきです。これらを、孤児院と日本語学校に行った3日目に感じました。2つ目は「日本」についてです。村で共に寝た通訳のリーが「日本語が話せれば仕事がたくさんある」と話してくれました。日本人のカンボジアへの旅行者は多いそうなので、ガイドの仕事ができるのです。また、日本の企業はカンボジアに工場やオフィスを構えているので、そこに就職できるチャンスがあります。そして、日本で働ければ給料もいいし、カンボジアから見たら日本は大国です。たくさん走っているバイク

のほとんどが、スズキ、ホンダ、ヤマハのものだし、車部門も、トヨタやマツダのものがほとんどでした。そう見ると、日本は豊かで安全な国というだけじゃなく、世界経済も回してる国ではないかと強く思いました。でも、カンボジアはじめ東南アジアや中国やインドの最近の発展度はすごいです。日本も調子にのっていると追い抜かれそうな予感がします。3つ目は「発展」についてです。東南アジアは、発展してきていると出発前から聞いていましたが、プノンペンとシムリアップの発展は想像以上でした。その中で、大晦日に電気がないトロピアンコ村で見た夜の星空、あれは世界の中の星空でもトップレベルではないでしょうか。まるでプラネタリウムのようなものでした。人生で初めてかもしれないあのクオリティーの星空は多分これから先の人生で見られることは少ないでしょう。その星空を見ていて思ったのは、この村もいずれ電気が通り、夜も明るくなるでしょう。また、石油を使い空気も汚くなるでしょう。あと 50 年したら、あの星空は世界で見られる場所はなくなってしまふ可能性は高いと思います。本当に、世界中のどの国も発展を目指して、世界は発展していいのでしょうか。本当に世界中が東京のような状態になったら、世界は滅びてしまうのではないのでしょうか。4つ目は「日本人認識」についてです。アンコールワットは、素敵な所で、日本人もたくさんいました。そこの近くのレストランで女子 2 人が「日本人は観光地だけに行き、その地を知ったふりをする」と言っていました。それはよくない日本人の習性です。旅行会社が企画してるプランに参加しているだけです。きちんとプノンペンにも行ってほしかったです。旅行会社もどうかと思います。また、僕の周りの学校の人やサッカーチームの仲間などに「カンボジアに行き、電気がない村に三泊しました」と言ったら笑われ馬鹿にされました。しかし当たり前だと思います。そりゃ行かなきゃ分からないし、行こうと思う興味がない限り知ることはできません。多分日本人の過半数は馬鹿にするとします。日本人の過半数は興味を持たないことに興味を持てたので自分自身としては新たなオプションが持てたと感じています。

最後に今回 15 歳でこのような国に行けて、なかなか普通の 15 歳ではなかなか気付くことができない事を気付きました。これは、今後の人生で大きなアドバンテージになるに違いありません。この経験と感じたことを生かし今後の人生を歩みたいです。そして谷口リーダーの力を使い筑波大学に入ります。

The things I learned in Cambodia

F.S (F) 高1

日本にいると分からない。ついつい、平和だと勘違いしてしまう。本当の貧困、本当の問題。私はなんて無知なのだろうと思い知らされた。カンボジアに行って一番衝撃的だった、あのポルポトの歴史。とても簡単に受け止められるものでも、信じられるものでもなかった。私たちは学校で世界の歴史の何を学んでいるのだろうか。ただ、年号を覚えて、賞賛されるべき素晴らしい人間の進化を知り、時に悲しい歴史の名前だけをしり、テストでいい点数をとっては世界史が得意なのだと言っていた。でも、そのどこが得意で、物知りなのか。ただ、記憶しているだけ。得意なのは、知っているのは年号や、進化の後の人間が見つけたとてもアバウトで、容易で、なんのメッセージ性もない、出来事の名前だけ。実際にその時代の人間がどれだけの苦勞をしたのか、どんな犠牲を出したのかなんて、知ろうともしなかった。だからこそ、現地ガイドの話をもメモして、真剣にきいて、実物に触れたこの経験は相当衝撃的で、だけど、とても大事な経験となった。ツールスレン、キリングフィールドに行ったその日は色々考えることがあって、なかなか寝付けなかった。もし、私がカンボジアに来てなかったらきっと、一生知ることのない真実だっただろう。十日間の中で習ったことはまだまだたくさん数え切れないほどある。高床式での暮らしでは、日本の生活基準の高さと、独特の綺麗へと意識。汚いとは、不潔とはなんだろう。日本の生活が豊かだなんてなにをみて私は思っていたのだろうか。本当の暮らしの豊かさと、満ち足りた気持ちが味わえた。そして、カンボジア、いや、東南アジアの眠れる力。発展途上国だからこそその不安定な、政治や、ルールがあり怖い思いをすることもあるが、ひとりひとりが生活の中で、自分の身は自分で守る、自然と共存する、立ち向かう勇気があり自立していた。私たち日本人は整った環境の中で籠の中の鳥のように縛られ、守られた中で甘えていたかもしれない。不安定な

世界で一生懸命生きる国民の力と、成長し続ける国の力、吸収力、学ぶ力に圧倒された。発展途上国と人々は呼ぶが、むしろ、人間的な自立力、学習能力では私たちの方が発展途上なのかもしれない。私も、東南アジアもまだまだ成長し続ける。南国の暑さと、力に背中を押された十日間だった。

カンボジアと私

I.O (F) 高1

将来は海外で仕事をしたいと思っていた私は、去年の夏、ラオスでホームステイ体験をする事業に参加した。ラオスでの貴重な体験により東南アジアに魅了され、今回の事業も迷わず応募した。カンボジアでの10日間で最も記憶に焼き付いているのは、やはりポルポト政権が関連する負の遺産である。1970年代、日本はちょうど高度経済成長のころ。私の感覚では特に昔というイメージはない、そんな頃にカンボジアでは、全国で約300万人が虐殺されていた。容易には信じられないような出来事が、たった40年ほど前に、実際に起こったのである。それなのに、私はカンボジアに行くこと決まるまで、ポルポト政権の事も、大量虐殺の事も何も知らなかった。学校の授業でもほんの少ししか触れない。これは知るべき歴史であり、過ぎた過去として忘れられてはいけない歴史だと思った。世界中を探してみれば、そんな歴史はまだ山ほどあるのだろうと思う。地獄のような収容所で生き残り、語り部として活動している生存者も2人となった。そのうちの1人はもう89歳だという。残酷な歴史だからこそ語ることをやめず、いつまでも伝えていくべきだと思った。私は、収容者の生気のない目が忘れられない。あんな目をした人をもう二度と生み出すべきではない。もっと早くどうにかできなかつたのか、日本はカンボジアの状態に気付かなかつたのか、と色々な気持ちが生まれたが、もうこれは変える事のできない現実なのだと思うと、自分には何もできないのは分かっているが無力感を感じた。私たちは、アンコールワットや王宮など有名で綺麗な観光地も訪れた。教科書でしか見た事のない建物に今自分がいると思うと、とても不思議な感じがした。でも、様々な場所を訪れてもなお、負の遺産を超える衝撃を受けたものはなかつた。それだけ訴えかけてくるものがあつたし考えさせられた。負の遺産などあつてはならない存在。世界を見てみると、未だに内戦やテロが無くならない状態である。これからまたどこかで、負の遺産が新たにできてしまうかもしれない。そんな事は二度とあつて欲しくない収容所や無数の人骨を見て思った。争いをしない、ごく単純で簡単な事のように思えるが、そうならないのが今の世界。世界平和を夢見していない人などいるのだろうか。なぜこんなにも時間がかかってしまうのだろう。様々な視点から多くの事を考えた10日間となった。このような経験ができる女子高生はなかなかいないと思う。自らの目で見て感じた事全てを忘れずに学び取った事を今後に生かしていこうと思う。